

平成22年度
第5回 温海地域審議会
会議録（概要）

期日：平成23年2月15日（火）

場所：鶴岡市温海庁舎 6階大会議室

平成22年度 第5回温海地域審議会 会議録（概要）

- 期 日 平成23年2月15日（火）午後3時～4時50分
- 場 所 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
- 出席委員 本間文夫委員、佐藤重夫委員、本間満委員、柴田実委員、三浦仁委員
五十嵐孝昭委員、三浦哲哉委員、佐々木真人委員、榎本五郎治委員
五十嵐良介委員、佐藤美代子委員、剣持孝一委員、五十嵐英夫委員
斎藤徹委員、佐藤容介委員、五十嵐淳子委員
- 欠席委員 本間澄男委員、齋藤守峰委員、五十嵐安貴委員、鈴木義一委員
- 市側出席者
〈温海庁舎〉
支所長 五十嵐收一
総務課長 伊藤彦市、市民福祉課長 五十嵐金悟、税務市民主幹 本間敏廣
産業課長本間新一、観光商工主幹 粕谷一豊、建設環境課長 庄司又兵衛
教育課長 鈴木金右工門、総務課課長補佐 富樫達男
総務課総務地域振興主査 三浦市樹、総務課総務地域振興主査 白幡俊
総務課調整主任 本間克秀
- 〈本 所〉
教育次長 森博子、参事兼管理課長 佐藤孝朗、学校教育課長 栗田英明
学校教育課学区再編主査 本間明、地域活性化推進室係長 粕谷一郎

1. 開会（午後3時）（総務課長）

2. 会長あいさつ

3. 支所長あいさつ

4. 説明及び意見交換

（1）学校適正配置検討作業について

（学校教育課本間学区再編主査説明）

○学校教育課長 担当の本間からご説明させていただきましたが、ご質問ご意見等ございましたらお願いしたいと思います。

○榎本五郎治委員 24ページのA群の下から2番目に五十川小学校がございいますが、五十川小学校が平成22年度の19名が平成28年度で38名と多くなるようですが、この要因について、それから、その下の福栄小学校も平成22年度が42名で平成28年度が45名で3名多くなるようですが、この要因についてお願いします。

○学校教育課長 14ページの年度ごとの児童数一覧表の下から4番目に五十川小学校がございいます。現在19名という児童数ですけれども、おそらく保育園に入っている方が増えてきている、出生数が増えてきていると思っております。これは五十川小学校だけで、こんなに増える地域は珍しいことで、毎年の出生数が増えているという現状しかつかめない状況でございいます。

○佐々木真人委員 広報で見た時は感じなかったけれども、実際、小学校だけで40校のうち14校、それとBCの単独学級がある大規模校との関わりで、相当数の小学校が対象になると、それも順次でなくて一斉に平成28年までには開校していくという、すごいなとしか言いようがないところです。温海の場合も岩川から始まって相当統廃合してきました。平成10年の統合中学校と鶴岡中央高校の開校に関わりまして、その中で高校の場合は両方の高校2校でしたから、その特色を生かす方向という前提がありましたが、温海中学校の場合は名前が温海中学校と決まっていたものですから、旧温海中学校のものは抑えなさいと、端的に言えば校歌ですけれども、旧温海中学校は中田喜直さんでしたが、茨木さんと佐藤さんの校歌、逆に鶴岡中央高校は鶴岡との縁ということで中田喜直さん、旧温海中学校も中田喜直さんとの縁があったので強く押しましたが、旧温海中学校の色は出さないようにと、各地域の良さと各学校の特色を生か

せるような統廃合になっていただければありがたいと思います。また、学校後援会も大岩川では各集落で40万50万を学校に出して地域ぐるみの活動をしていただけたけれども、温海小学校になって温海の教育観と大岩川の教育観が違うものですから、低いところで後援会が発足しています。そのあたりも地域の検討委員会になろうかと思えますけれども、配慮していただければと思っております。地域的にはいろんな反応とか、いろんな学校との関わりがあろうかと思えますけれども、なかなか大変だと感じたところではあります。

○**学校教育課長** 今お話にあったように、現在行っております学校適正配置の検討委員会は、鶴岡市の子供たちがどのような環境で学べば、より良く健やかに育っていけるかということが現在の課題でありまして、その次の段階で温海地域においてどのような環境で子供たちが学んでいけば、より良く育っていくであろうということで、ご検討いただくように考えております。現在のところ、それで良いのかと反対に言われたりもするのですが、私どもといたしましては、例えば温海地域に複式学級のある学校が何校かある訳ですが、最終的な形としてこのような形でというような結論はまだ持っておりません。地域の中で子供たちがより良く育つためには地域らしさということをお話いただきましたけれども、地域の検討委員会の中で話し合いたいと考えております。温海には温海の良さがあります。その中で温海の子供たちにどのような環境で学ばせたいか、ということをお話いただくようお願いしたいと思います。先ほど担当からも申し上げましたが、まず情報を皆さんから正確に知っていただくことを第一に考えておりますし、皆さんのご意見を十分にお聞きしていきたいと思っております。その関係で各中学校区で説明会等もこれから計画させていただきたいと思っておりますので、PTA等ご協力いただくことになると思っておりますので、よろしくお願いたします。

○**三浦哲哉委員** 山戸小学校のPTA会長をしております。鶴岡市の市P連の副会長もさせていただいております。市P連の会長もこの適正配置検討委員会に入っておりますので話は伺っております。時代の流れというか、子供の少子化の状況としては致し方ない部分もあるかと思えます。ただ学校で普段PTA活動の中で、温海地域では地域との関わりがすごく深いということです。特に山戸でいうと古典芸能、昔からある山戸能、山五十川歌舞伎、お囃子、お謡ということで、地域に根ざした学習をしております。また、温海地域には学校田があつて、学校の授業で田植えから収穫までしています。あと地元には伝わっている炭焼きなど、他ではできない貴重な体験が温海地域ではされていると思えます。他の学校でもそれぞれ稲作とかもしておりますし、都会では相当お金をかけないと出来ない貴重なことが出来ていると思えます。先生方からは完全複式の中で非常に大変な対応をしていただいておりますし、そういった解消しなくてはいけない部分もあるのですが、温海地域とすれば、山戸

小学校の完全複式を一つ解消すればという話にはならないとは思いますが。温海地域の中学校学区全体での統廃合を考えていくのが一番良いと、数が大きくなったから良いとか、少数だから良いとかは極論であって、人とのコミュニケーションの数が多いためから良いということにはならないことですから、最終的に結果論と私は考えております。大きな輪の温海中学校の学区内での検討をしていければと考えております。

○**学校教育課長** 今お話あったように山戸小学校、本当に古典芸能、黒森との交流等も含めまして、地域のことを本当に子供たち一生懸命勉強して地域の良さを知ること、本当に地域を愛する子供に育ってくれると考えております。地域の先輩たちとの関わりを生かしながら学習することは、今回の問題を通してすぐになくなるとは考えていません。これからも、各学校の特色ある活動は継続できると考えております。また、2点目として、中学校区全体で考えて欲しいというお話がありましたが、私どもといたしましても、11 ページをご覧くださいとよくわかると思いますが、11 ページの温海中学校区 5 校、右下にございますけれども、どことどこを一緒にするというのではなくて、先ほども申し上げましたけれども、温海中学校区でどのような形が一番良いのだろうかということで、地域の検討委員会でもより良い形についてお話し合いいただき、その後、結論を出していただきたいと考えております。今お話にありましたようにどことどこが一緒になるのではなくて、温海地域全体で考えていただきたいと考えておりますので、検討委員会でその点について、ぜひお話し合いいただければありがたいと思います。

○**佐藤重夫委員** 教育委員の立場で菅野代小中学校と中学校の統合に携わって、統合の大変さを体験した者でございます。特に菅野代小中学校は大変でした。統合について総論では皆さんに賛成をいただいた訳ですけれども、各論になると課題もたくさんあって、それをどうやってクリアしていくかで大変だった訳ですけれども、ずっと菅野代地域を見ていると、地域から学校がなくなると、これは少子化どころでない地域が完全に閉塞していく状況を見ていくと、当然解決しなくてはならない訳ですけれども、学校のあるそれぞれの地域で大変憂慮している中で、こういう問題については話しづらい訳ですけれども、現実には現実ですので、解決していかなければならないし、これからの地域検討委員会でみなさんの合意を得て進めていければと感じております。

○**本間満委員** 学校統廃合の問題では、私は旧鼠ヶ関の合併で当時旧念珠関中学校が発足した時の第 2 期生でありまして、その後、自分の子供が岩川学区の統廃合に関わって、そして温海中学校と 3 つの統廃合を見てきておりますけれども、通学路の問題もあるかと思います。鶴岡市街地では通学距離がどのくらいで学級編成されるのか、昔は 4 キロから 4 キロ半ぐらいの距離はみんな歩いて通っていましたが、現在、統廃合すればみんな通学バスになると、近くても遠くても通学バスになっているようで、

その子供さんたちが体力的にも衰えないかという感じがします。それから、小波渡の子供たちは国道 7 号を自転車で通学しており、小さい子供がカップを着て集団で通学しているのを見ると元気があって良いなという感じがします。温海の場合は、温海中学校が統合してから歩く生徒はいなくなったと、認識不足だと思いますが、私は見ております。今後、通学路によって編成替えがあるのか、それから遠いから全部スクールバスにすれば良いというものなのか、そのへんを疑問に思っているところです。通学路の距離が何キロまでは良いというものがあれば教えていただきたい。

○**学校教育課長** 夏場と冬場は距離が変わっておりまして、原則は夏場が 4 キロ、冬場は 2 キロが基準になっております。ただし、いろんな地域がございますので、子供たちの安全を確保するために、それより短い距離でもスクールバスを使っている例がございます。ただ今おっしゃるように、歩いて通える距離の子供もスクールバスに乗るのはどうかと私自身も考えておりますし、安全に歩いていけるお子さまについては、やはり歩いて登校するのが一番じゃないかなと考えております。ただ、いろんな地域を回らせていただくと、スクールバスで長時間乗って学校に行くというような例もありますので、その点については子供たちの発達段階を見ながら、通学時間についてもできるだけ短い時間、バスに乗っている時間なんかについてもできるだけ短く済むような形で検討していきたいと考えております。

○**総務課長** いろいろ意見等ございましたが、以上で 4 番の説明及び意見交換を終了いたします。ここで 10 分間の休憩といたします。4 時 10 分から再開します。

(休憩)

○**総務課長** それでは審議会を再開致します。5 番の協議ということで、会長の方から座長をお願い致します。

5. 協議

○**本間文夫会長** それでは 5 番の協議に入らせていただきます。今年度の地域審議会のまとめについて、事務局より説明をお願いします。

(総務課長説明)

○**本間文夫会長** ただいまの説明は各分散会で皆様のご意見をまとめた内容ですが、不足な点や追加意見などがあればお願いしたいと思います。皆さんいかがですか。

○**五十嵐英夫委員** 地域グループのネットワーク化について、これは外に対する情報発

信がここの中で言われている訳ですが、外に対するだけでなく内に対する、例えば、各地域のグループ同士、グループがいろいろある訳ですが、そのグループの間の、そのネットワーク化といいますか、そういう点につきましても情報を交換し合って、その中で活動の組み立て、一緒にコラボレーションしてやれたら、もっといろんな意見とか活動が出てくるのが良いと思います。ご検討いただければ大変ありがたいと思います。天魄山の整備ですが、天魄山の反対側になる訳ですが、越路の一番峠のところから槇代の上を通って峠ノ山までの道路、西山林道がある訳ですが、その眺めも非常に良いし、あつみ温泉を眼の下にして大変良いところなのですが、残念ながらカーブのあたりに古材などが放置されていて、ほとんど展望することが出来ないようになっている。それと友愛の森の再整備ですが、この友愛の森というのを見てみますと、道路らしいのがあるだけで、手入れもされなければほとんど藪になっている。ここが友愛の森なのかなと、言われて見ればあそこだなというような状態になっている訳です。そこを手入れするのであれば、むしろ峠ノ山までのコースを作った方がもっと効果的ではないだろうか、出来ればその峠ノ山から更に延長して林道でも作って、小国それから一霞間の林道に繋げるような林道が出来ればもっと素晴らしい散策道が生まれてくるのではないかと考えます。これはすぐ出来る訳ではないので、将来の目標といいますか構想として持っていただければ大変ありがたいと思います。

○本間文夫会長 ただいまのご発言はご意見として承っておきます。各地域グループとのつながり、ネットワーク化について、それから西山林道、それから峠ノ山からの林道の環境整備についてのご発言ありました。

○総務課長 この報告は、2月21日に各庁舎の支所長が集まって、市長をトップとした地域振興対策会議において市長に報告する予定になっておりますので、ただいまの意見等も参考にしながら追加を検討していきたいと思います。

○本間文夫会長 他にございますか。榎本委員お願いします。

○榎本五郎治委員 （仮称）温海インターチェンジとなっておりますが、前からあつみ温泉インターチェンジと温泉を入れていただきたいという要望がありましたので、その取り組みとか、現状、流れとか、来年の今頃までは開通する訳でございますので、あつみ温泉インターチェンジと温泉の名前の位置付けというのはどうなっているのでしょうか。

○建設環境課長 まだ決定事項ではございませんけれども、国土交通省でもあつみ温泉という、あつみはひらがなで温泉を付けた名称で、前々から要望があるということで、国交省でも認識をしております、その方向で決まる方向で動いておりますので、私

としてもそのとおりに決まると考えております。それから関連で申し上げますけれども、五十川からも漢字の五十川だと読めないということもありまして、ひらがなでということでお話をしておりまして、そちらもそのとおりの方向で動いていると、まだ決定ということではございませんので、そこらはよろしくお願ひしたいと思ひます。

○支所長 今の発言の趣旨は、この報告書は皆さんの会議で出たものをまとめて報告するという中味ですので、文章を仮称であっても温海インターチェンジでなくて、あつみ温泉インターチェンジという名前にして報告書を作ってほしいということだと理解しますけれども、そういう形で直して報告をして良いということでもまとめていただければと思うのですけれども。

○本間文夫会長 榎本委員、よろしいですか。

○榎本五郎治委員 はい。

○佐藤重夫委員 審議委員会をしながら1年間経った訳ですけれども、その間に9月のゲリラ豪雨そして今の冬の豪雪ということで、本当にこの温海地域、災害に弱い地域と皆さん感じたと思ひます。これが前段に話になった学校のスクールバスも含めて大変厳しい環境に置かれている地域ということで、地域の方々が安全安心に暮らせる地域づくりが大切ということを感じました。これから温海として、住むには安全安心だという地域づくりは、本当に大前提になると感じております。これからはいろんな産業関係も地域づくりが大事という感想でございます。

○総務課長 今、災害に弱い地域ということで、非常に環境的地形的には弱い地域だとは思ひますが、人的な部分は非常に災害には強い地域かと、自治会の組織もそうですし、われわれもそれなりの対応をしているつもりですし、環境面では非常に弱い地域ですけれども、人的な環境面は他に負けないくらい災害には強い地域と自負しております。

○本間満委員 インターチェンジも出来て大変便利になってきたという思ひの中で、今から5,6年前だったか、JRと国道7号が土砂災害で1ヵ月も2ヵ月も交通が遮断されたことがありました。その影響で物流がみんな止まってしまった。旧温海町には迂回路がなくて小さな乗用車しか通れない、大型の物流を運ぶ車が通ることができない。それで新潟県の米坂線の方を上って内陸を回って酒田の方に来なくてはならない。それであそこのインターチェンジから県道にどうにか繋げる方法がないのかと思ひて、毎日あのへんを歩く時に思ひますが、今後、インターチェンジから以南の、県でも市でもそうだと思うけれども、物流の拠点をどうするのかということが重要だと思ひま

す。私は漁業なものですから、北からくる魚が南に行かなくなると、かなりのダメージが起きるのではないかと思いますので、今後、南につながる温海管内の迂回路というものを、今後どのように考えているのかお聞きしたい。

○建設環境課長 今のお話のように 345 号も平沢・関川間はかなり狭くなっておりまして、冬季間は通れないということで、望みの綱と申しますか、やはり高速道しかないのかなと思っております。その関係で新潟県の村上市とも連携しながら、日沿道の整備計画への格上げを今までも一生懸命運動して参ったという次第でございまして、22 年度ですけれども、国交省の方でもパブリックコメントで求めている訳ですけれども、その中の意見にもかなり新潟県境、新潟と山形の県境が国道 7 号しかないということで、高速を早く繋げてくれという意見がかなり出てきているようです。とにかく日沿道を繋げていくしか方策がないと思っておりますので、強力に頑張っていきたいと思っております。

○本間満委員 鼠ヶ関から入って小名部から小国に越えていく角間台道路を拡張していけばあつみ温泉に行く大きな道路にもなるのでは、それでないと大型車が通ることが出来ない訳だから、それを拡張して繋げていけるようになればと思って聞いてみたところでした。わかりました。

○本間文夫会長 物流のことで、よく J R の羽越線が風で止まるということで、五十川駅の鉄橋のところに、210m ばかりトンネルを出たところから五十川駅ホームまで防風柵が設置されます。高さ 2m で 23 年度の冬までに設置すると、先般 J R の方が図面を持って来られました。その部分が防風柵で風除けになれば、羽越線の運休も少なくなるだろうという話でした。

○柴田実委員 「温海嶽を愛する会」という会ができました。約 50 名の方がその組織に入っております。その方々が温海岳の旧道、いわゆる登山道、昔の道を復元し新しく作って、車で上がるのではなくて、歩いて上がろうというコースを作っております。これはもちろん行政のご指導のもとに動いていることも多々ありますが、現に活動を行っております。また、温海岳が今年の 5 月に「山と溪谷」の中に写真入りで入るといってお話も聞いております。その捉え方と今後をどのように思っているか、聞かせていただければ大変ありがたいと思います。

○観光商工主幹 温海岳の整備につきましては、市といたしましても温海地域の地域振興ビジョンに位置づけまして、平成 21 年度から年次的に整備を進めております。そういった中で温海嶽の会が昨年発足いたしまして大変うれしく思っております。私どもも温海嶽の会も自治会を通しまして、整備に向けた具体的な協議とか、それから整備され

た後の管理、それからイベント等の開催等、随分、温海嶽の会が主体的に取り組んでもらっていることに対しまして、市といたしましても大変うれしく思っております。今後ともまだ未整備なところもありますので、引き続き市と温海嶽の会と協議しながら連携を取りまして、整備に向けて将来的にはお客様を呼べる温海岳にしていきたいと思っております。5月15日に今年は「温海嶽の開山祭」ということで、昨年引き続き温海嶽の会が主体になって開催するという事聞いておりますので、非常に私どもにとってはうれしいことだと喜んでおります。

○本間文夫会長 柴田委員よろしいでしょうか。総務課長。

○総務課長 一つの区切りとして、今まで出た意見を確認します。一番目の地域グループのネットワーク化は、外に対する情報発信だけでなく、内外的な部分、グループ間のグループ同士のコラボ、情報交換も追加すると、あと天魄山の整備もありますけれども、それ以外に西山林道の整備といえますか、環境整備的な部分、それから友愛の森の手入れの関係も追加していきたいと、さらには、インターチェンジの名称の部分で（仮称）温海インターチェンジをこの段階で（仮称）あつみ温泉インターチェンジということでPRしていくと、このように審議会の報告の内容を訂正させていただきたいと思えます。

○本間文夫会長 今、総務課長さんの方からまとめてご報告ありましたことを、ぜひ今後の市政に反映させていただきたいと、このように思いますし、協議はここで終了いたしまして、その他に入らせていただきます。6番その他、事務局よりお願いします。

6. その他

○総務課長 今年1年間5回ほど大変ご苦労さまでした。5回のうち分散会を報告を含めまして3回ほど行った訳ですが、今年度皆さまからはテーマを出していただいて、温海地域では分散会の方法を取って協議をしていただきました。それで今年度の進め方に対して感想やご意見をいただき、来年度の地域審議会の持ち方の参考にしていきたいと思えます。今年1年を通した感想等も述べていただければ幸いですのでよろしくをお願いします。

○本間文夫会長 それでは、それぞれの委員がみんなお持ちでしょうから、一人ずつお願いします。

○佐々木真人委員 先ほどの学校適正配置検討関係が今年度中に最終答申が出され、それがどういう形で地域に示されるのか、温海は温海中学区一つですので、一つの地域検

討会になるかと思いますが、審議会と相当重なってくるのではないかと、大きな話題にならざるをえないのではないかと、それも 28 年までに一斉に開校するという事です、地域検討会との関わりがどうなるのか、そちらはそちらでしょうけれども、地域審議会でも検討ということがあるのではないかと考えています。

○五十嵐孝昭委員 日沿道の開通もほとんど日にちが決まってきていますけれども、温海のインターチェンジに皆さんも 1 回くらいは現地調査という形で見て再度確認というか、ここに何を建てるとか、ここをどうしようかということは、もう一度研究調査してみても良いのではないですか。

○柴田実委員 23 年度オープンの高速道路、この開通があつみ温泉にとっては、誘客を図るには最後のチャンスだと思っております。これに乗らないとあつみ温泉は旅館も少なくなるし、人口も少なくなることは目に見えてわかろうと思っております。何をやったら良いか、観光協会だけの問題ではなくて、地域全体が一丸になって、何をやったらお客さんに来てもらえるのか、危機感を持っております。それと高速道路を 80 キロで走行してあつみ温泉を見る時間は 1 分間くらいしかないのです。そのときあつみ温泉をどうやってお客様に印象づけるか、ただ看板だけ掲げれば良いという問題ではないと思っております。皆さまのご意見を聞かせていただけたらと思っております。

○本間文夫会長 地域審議会の会議の新年度の持ち方や内容の方もお願いします。

○五十嵐淳子委員 地域グループのネットワーク化について、ホームページの開設や小冊子の作成が最終目的ではないと思っております。あくまで地域間の連携を生むのが目的であります。検討の場自体がいろいろな地域、職業の人との交流の場となって、また、その集まりの活動自体もお金をかけずに、マスコミに取り上げてもらうなどすれば話題づくりや良い宣伝になるのではないかなと思っておりました。それにより地域の人も元気になって、より温海っていいなと思えるようになれば理想的だと思っておりました。

○斎藤徹委員 この審議会を今年度分散会方式でということ自体は素晴らしいことだと思っております。地域審議会はチェック機能を果たすところと私自身思っておりましたが、こういう形で今年度やったことは良かったなと思っております。来年度はこのテーマも含めてですが、もう一つも二つも若い人達を入れて掘り下げて、この部分を議論していくことが必要ではないかと感じているところです。例えば、このグループのネットワーク化も、先ほど五十嵐さんのお話にもあったのですが、この温海地区というのはいろんな地域でいろんなイベントを自分たちで頑張っているところがあるのですが、なかなかそれが観光に結びつかないのはなぜなのかと思っているところです。例えば、温海でやる部分、鼠ヶ関でやる部分、あつみ温泉でも当然イベントをやっている訳ですが、

行政の橋渡しの中でも良いですが、やはり地域の人材が足りないのか、そういう部分でいかに連携して集客に結びつけるなり、そういう部分を今後テーマとしてももう少し掘り下げていくべきではないかと思っているところです。それから、1月のテレビの中で、この地域に買物弱者がかなり出てきているのが現況だと放送されました。来年度、全体で考えていくべきではないかと感じているところです。

○**剣持孝一委員** 今日の学校問題、これから5年後の生徒数、児童数が減少することについて驚いています。人口が少なくなることが、一番活性化にはならないことだと思いますし、やはり地元に残って仕事ができる地場産業を地元に取り入れて、持ってきて、地域の活性化につなげる話し合いもやっていただけたらと感じております。

○**佐藤美代子委員** 地域審議会の会議のやり方としては、テーマを決めていただきまして、話しやすかったと思っています。今日の統合問題では学校は子供の将来を考えて、観光はお客さまのことを考えて、小さいことからすれば知恵が生まれるのではないかと思います。観光で生きる街としては、JRから降りても除雪もされていなかったという現状を見まして、都会から来る方は浅靴を履いてきますので、小さいところから掘り下げていったら良いのではないかと感じました。

○**三浦哲哉委員** 来年度に向けての進め方ということで、このような会議の場になると、いろんな意見を頭では考えるのですが、いざ発表となるとなかなか言えない部分もありまして、分散会のような小さな単位の話し合いの方が話しやすいと感じました。その上で意見を積み上げて、温海地域のグランドビジョンを作っていくのがこの審議会だと思います。また、第1回目に鶴岡まちづくり塾の発表がありました。内容的に、今の温海の一番の問題ってそこなんじゃないかと感じましたし、若い人たちがそれだけ今の温海の課題に対して非常に一生懸命考えていると感じましたので、ぜひともそういった意見も会議の中で審議ができれば良かったと思いました。

○**三浦仁委員** 今年度1年間、審議委員会の会議の持ち方については、いままでになかった形での会議の進め方で大変良かったと思っています。市から提案される問題点を協議するだけでなく、やはり委員自らが議案を提出しながら話し合われたことについて非常に良かったのではないかと、今後も続けていただきたいと思っています。それから、まとめの④友愛の森の再整備ですが、森を散策してみると、確かに出来た時はりっぱなものが出来ていた訳でございますけれども、誰が管理するのかよくわからないことから、草木は伸び放題みたいな形です。今後、インターチェンジと兼ね合わせた形での環境整備といわれている訳ですが、管理体制まできちっとしたものを定めていかないと、なかなか観光に結びつくようなものにはなっていないのではないかと心配されます。そのへんも含めた提案の仕方をされていってはいかがかと思っています。

- 本間満委員** テーマとしては、あらゆる角度からテーマが出てきて大変良かったと思っております。また、漁業関係に対しても皆さんからご意見がいただけたことに対しても感謝申し上げたいと思います。今後もテーマ的なものと、三浦さんが言う様々な角度からのものと、審議会運営の仕方も角度を広げていったら良いと感じております。
- 佐藤重夫委員** 一年間話し合われましたことをぜひ行政の中で生かされればということと、併せて地域住民の暮らしに生かされればという思いでございます。
- 本間文夫会長** 温海地域の各団体から選出された素晴らしい委員の皆さんに助けられて、1年間務めさせていただきました。本当にありがとうございました。新年度に向けて、各集落で地域懇談会が進められていますが、その課題をテーマにして検討できれば良いと思っております。委員のみなさんからそれぞれお聞きしましたし、以上で6番のその他を終了させていただきます。
- 支所長** 皆さんから来年度の地域審議会の進め方にいろいろご意見をいただきましてありがとうございます。先ほど会議の最初に総務課長から話があった訳ですが、2月21日、市長、副市長、総務部長、企画部長、各支所長の会議が行われます。その際に今年度の地域審議会の内容の報告や来年度に向けた考え方の話し合いも持たれることになっておりますので、今日の皆さんの意見を参考にしながら検討してまいりたいと思います。来年度の会議は4月か5月頃に主要事業の説明をしながら、皆さんにいろいろお諮りをするということになろうかと思っておりますので、来年度もよろしくお願ひしたいと思います。

7. 閉会（午後4時50分）（総務課長）